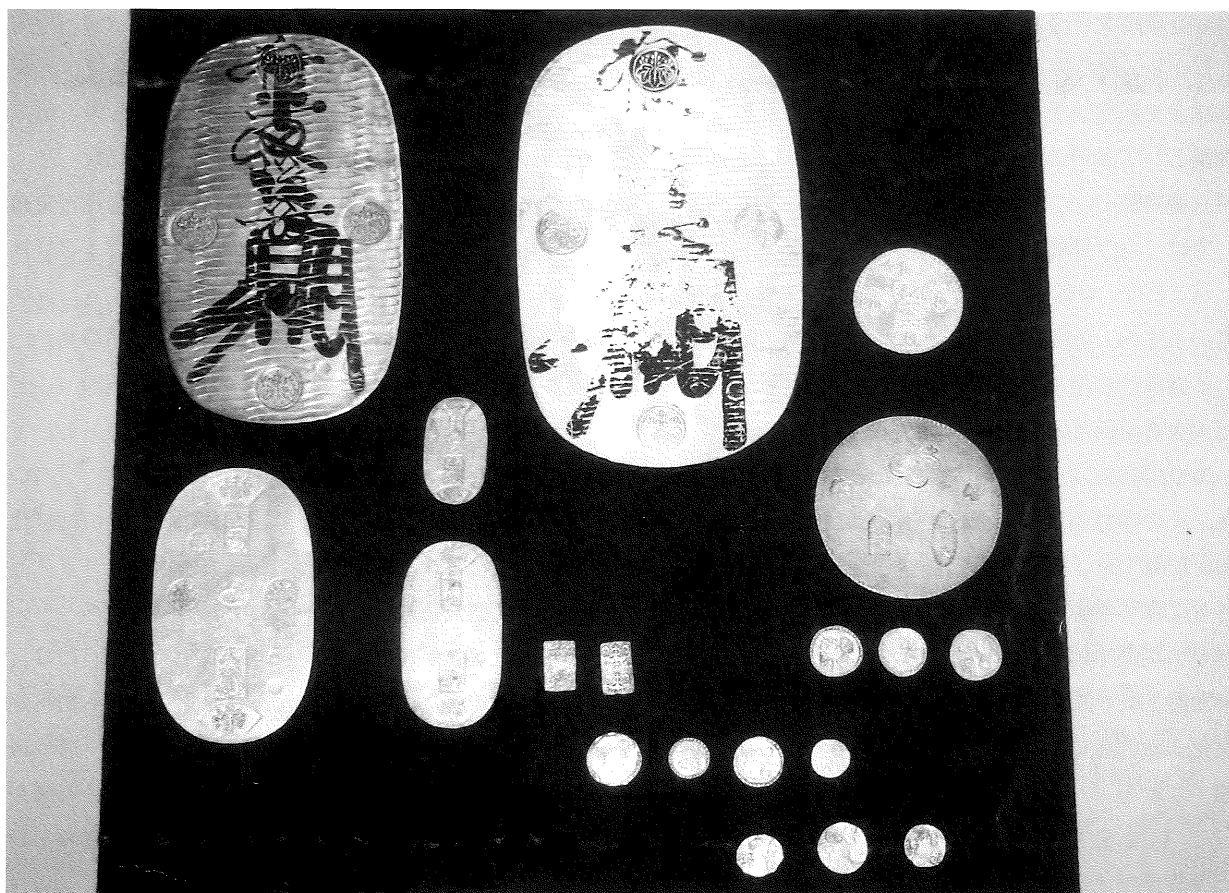


博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡 / 湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報



古甲州金、江戸時代の大判・小判が博物館へ

奥山源栄氏（春日居町）が123点寄託

このたび春日居町在住の奥山源栄氏より金貨121点、貨幣関係資料2点、計123点の貴重な資料が金山博物館へ寄託され、展示・公開されることになりました。この金貨は、先に博物館開館5周年を記念して開催された金貨展に出品された資料で、企画展開催中も全国各地から来館した多くの方々をうならせたものです。奥山氏も「家に置いておくよりも多くの方々に見て研究していただけるなら、その方が良いでしょう」と御判断され、寄託が実現しました。

現在博物館では、奥山氏からいただいた信頼と御好意に対し、これらの貴重な資料をより多くの方々に御鑑覧いただけるよう準備を進めています。

ハブ博物館による連携の時代

日本の博物館は「対話と連携」を模索

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 谷口 一 夫

いま、山梨県では県立博物館建設で議論が交わされています。博物館の必要性はいまさら申し上げるまでもありません。反対意見の中身も、博物館には反対でないけど、いまこの時期になぜ必要なのか？という時期を問うものが多いようです。

しかし、今計画されている県立博物館（仮称）は、県議会や新聞紙上での知事のお話の中でも「ハブ博物館として県内の文化施設と連携して」と話され、県立博物館がハブ博物館だと位置づけています。

では「ハブ博物館」とは、どんな博物館？

ハブとは、自転車のスポークを束ねているところを言いますが、近年、世界各地の大都市空港と結んでいる国際的空港のことを「ハブ空港」と呼び、この巨大空港の代名詞として「ハブ」が使われています。

県立博物館は、山梨県全域を全県博物館として捉え、その中核館に「ハブ博物館」としての県立博物館を位置づけ、県立博物館で歴史提案された歴史をさらに深く学習したい来館者の学習ニーズに応え、歴史の現場や地域の文化施設へ誘導するなど、県立博物館と県下各地の文化施設などが連携し、教育・文化の活性化に相乗効果をあげていきたいという発想、これが「ハブ博物館」構想です。

金山博物館とはどういう関係に？

県立博物館における展示構成は、山梨における歴史を幾つもの「展示テーマ」に分け、より分かり易く理解できる工夫がなされています。

しかし、県立博物館といえど、山梨における歴史のすべてを「一館完結」で収めることは、当然できませんから、県内全域の文化施設と、それぞれテーマごとに「連携」を図り、博物館としての機能を相互に活用することが望まれます。いわゆる県立博物館のハブの一館として「甲斐金山」の学習を深める場となります。

「甲斐金山と甲州金」は金山博物館

「展示テーマ」の一つ「甲斐金山や甲州金につい

て」は、全国的にも県内的にも、学術的な専門館は唯一「湯之奥金山博物館」しかありません。

展示内容も優れ、資料も充実しています。特に本年度は、山梨県春日居町の奥山源栄氏から、「古甲州金・新甲州金・幕府の大判・小判・一分金・一朱金・二朱金」など、121点の金貨の寄託を受け、更に専門館としての資料の充実が図られました。

国史跡「中山金山」のガイダンス館

もともと湯之奥金山博物館の使命は、国指定史跡中山金山という「歴史の現場」をもつ、ガイダンス施設です。

金山、金山史、金山技術史研究の拠点的博物館としての機能を中心に、その他、生涯学習施設（子どもプログラムの提供、下部町の活性化施設）としての役割ももっています。

町村合併後は峡南地域全域の文化・教育の活性化施設となります。

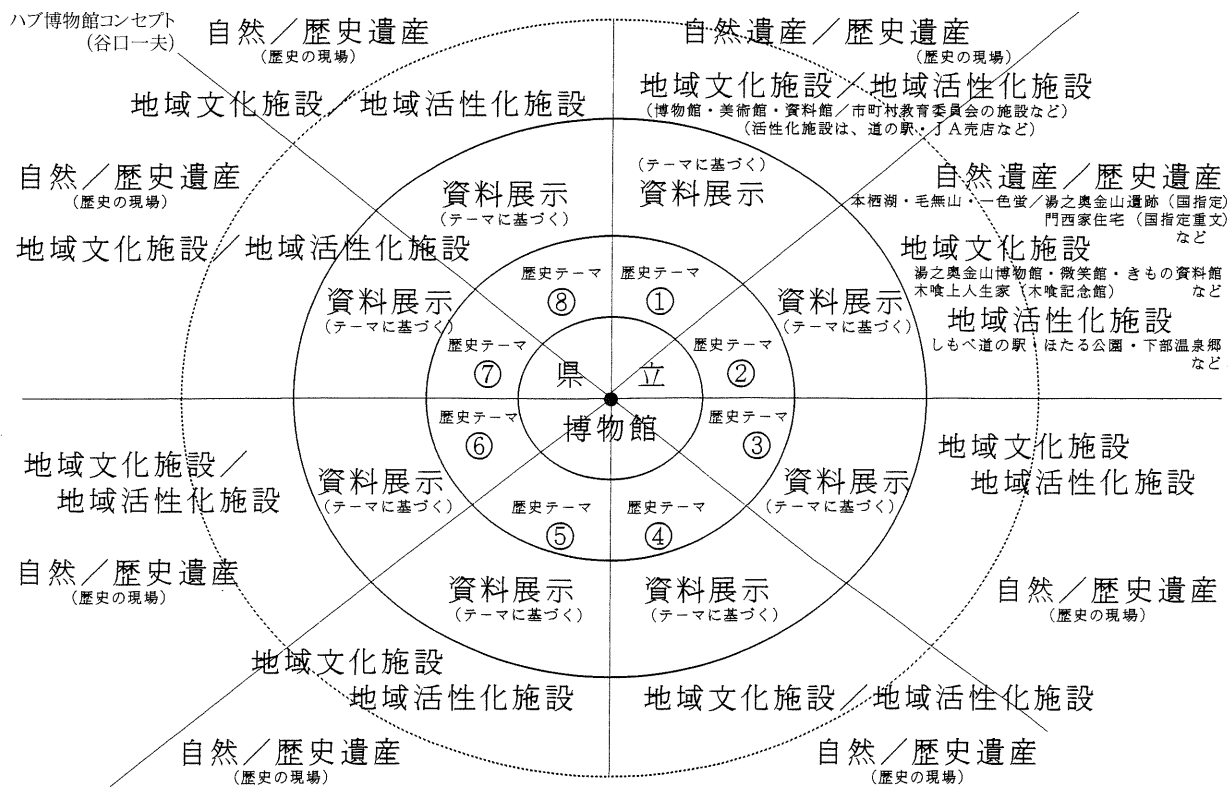
県立博物館から、それぞれの専門館へ

県立博物館における展示の「歴史テーマ」には、必ずその「歴史の現場」があります。中でも国指定史跡「新府城跡」「谷戸城跡」、県指定史跡「勝沼氏館跡」「甲府城跡」などは史跡公園としての整備が進められています。既に整備が終わり活用されている中道町の「風土記の丘公園」、八代町の「ふるさと公園」、大泉村の「金生遺跡」などがあり、さらに富士川（釜無・笛吹）などの沿岸市町村は積極的に河川公園や資料館などを計画しています。

このように「歴史の現場」は、県下至る所にあり、そこには公立・私立問わず博物館、美術館、資料館、センターなどの文化施設があります。

「ハブ」でプログラム構成

例えば、県立考古博物館、釈迦堂遺跡博物館、富士吉田歴史民俗博物館、ミュージアム都留、湯之奥金山博物館など、県・市立や町立の専門館が設置されています。また財団や私立の館もたくさんあります。



それ等の施設とハブの繋がりで見学構成を考え、現地への誘導の在り方を考える必要があります。

県立博物館の学芸員と地域の文化施設の学芸員や文化財主事らが、地域に展開された「歴史テーマ」について、同じテーブルに着いて共に考え、来館者と共に「歴史を学び」「歴史を組み立て」「歴史体験」ができる方策を講ずることが大切です。

博物館は「対話と連携」の時代へ

いま、日本の博物館は「対話と連携」の時代を迎えたとして、日本博物館協会でも、その推進委員会の設置と推進方法などについて、調査・検討の必要性を研究課題にあげています。一館でなく、互いに連携できる館が連携して、新しい時代の博物館を模索しようと言うものです。それは、「ハブ博物館」のコンセプトそのものです。

県博とハブ館で満たせる「学習ニーズ」

「ハブ博物館」は、更に深く学習しようというニーズに合わせ、テーマごとに、「歴史の現場」へ誘導する考え方で、誘導する方法は、シャトル・バスなどの運行が望まれるところです。何でもかんでも、マイカーという考え方でなく、グループで移動することも大事です。

それはエコ（環境）プランにも貢献できます。

何組かの家族が同じ車へ乗り、車内で解説を聞き、歴史の現場に立ち、お互いに子供たちに学習する姿を見せることも大切な生涯学習になります。

展示テーマだけ、リピーターに期待

前回、①治水利水の歴史コースを回ったので、今回は、②甲斐国の金山を学習したいとか、③武田の歴史を更に深く学習したいとか、④富士山や富士の信仰について学習するとか、⑤国中、郡内という地域があるが、その中身を詳しく知りたいとか、⑥甲府城や甲府城の城下町を知りたいとか、⑦……、色々な歴史コースを選択することで、来館者のニーズ（知的な好奇心）を十分に満たすことが可能です。歴史コースの数だけ、リピーターにも期待できます。

「ハブ」構想は日本で最初の試み

こういう発想の博物館は、日本に一館もありません。山梨県が県立博物館をこのような「ハブ博物館」としてスタートすることができれば、もうこれは「箱もの」ではありません。地域の教育・文化・経済の活性化施設となります。

活 動 報 告

第5回 企画展 「金貨」

～ 甲州金から幕府の金へ ～

3月30日(土)

5月7日(火)

3月30日から5月7日までの約1カ月間にわたり開催された第5回企画展「金貨～甲州金から幕府の金へ～」が好評のうちに終了いたしました。

桜の季節の3月下旬からゴールデンウィークを挟んだということもあり、期間中約1,000人以上の観覧者に見ていただくことが出来ましたが、今回展示された甲州金及び江戸時代大判小判は、所蔵者・奥山源栄氏（春日居町在住）から借用させていただいたもので、整然とした形で時代を追って収集しており、また資料的に非常に価値の高いものがそろっていることから、観覧者の目を楽しませてくれただけでなく、学術的にも満足いただける展示をすることが出来ました。

展示ケースには121点の金貨に加え、甲府城址から出土した慶長一分金、鵜沢河岸遺跡から出土した南鐮式朱銀、甲州壱分判など、県内遺跡から出土した金銀貨も合わせて展示しましたが、これらを含め、これだけの資料を一度に見る機会はなかなかないこともあり、感嘆の声を漏らす人も多く見受けられました。

今回、会場入口には、自由に持ち帰ることが出来る展示解説書も用意しましたが、こちらも好評で、作成した冊数はすべて御覧いただいた方々の手に届いたようでした。

また、期間中4月20日（土）にはこの企画展を記念して、西脇康先生（早稲田大学エクステンションセンター講師）に「甲州金から大判小判へ」という演題で御講演いただきました。たくさんの金貨に囲まれての講演は盛況で、会場は狭く感じるほどでしたが、先生の興味深い話に合わせて、聴講者達の目は展示資料やスライドに映された黄金色にいたく惹きつけられていた様子でした。

今回も快く資料を提供して下さった奥山家はじめ、展示構成・解説指導をして下さった西脇先生、千両箱などの資料を提供していただいた山梨中銀金融資料館など、各方面からの御協力をいただき無事に終わられ、また成功を収めることが出来ましたが、この甲州金をテーマにした企画展が開催できたこと自体、館の大きな成果となりました。

有料入館者 9万人目は矢崎さん（山梨県）

6月23日(日)



6月23日（日）午前中、当館ではめでたく、開館以来、9万人目の有料入館のお客様をお迎えすることが出来ました。

この日9万人目の入館者となったのは、白根町在住の矢崎純さん。

「おめでとうございます。」という受付の声に合わせて周りでクラッカーを鳴らされ、とても驚いた様子でしたが、そんな状況の中、矢崎さんには、谷口館長から花束が渡されました。続けて展示図録、博物館テレホンカード、そして金箔記念入館証を渡され、「何のことだか分からなかったけど、今分かりました」と、そこで自身が、記念入館者となったことに改めて驚かれていた様子でした。“90000”のチケットをパウチしたものが贈られました。

矢崎さんと一緒に入館された友人、斗石みや子さん（横浜市在住）、金子雪江さん（川崎市在住）の

二人には、前後賞として、図録、テレホンカード、パウチチケットが贈られました。

矢崎さんらは、前日に既に来館しており、館内見学の後、砂金採り体験も楽しんでいたのですが、この日、帰る前にもう一度体験してみたいということで来館されたそうです。その結果、見事9万人目の入館者となったわけです。

この後3人は、予定通り砂金採り体験を楽しみ、「いい記念になりました。ありがとうございました。」

と館を後にしていきました。

前回、8万人目のお客様をお迎えしたのが今年の10月でしたから、それから約8カ月で1万人を達成したことになりますが、ここ最近の入館者の増加に合わせて、いつもより達成ペースが速くなってきています。次の10万人目のお客様を迎える報告を「館だより」紙上でも早くお伝えできるよう、職員一同、更なる努力を重ねていきたいと感じています。

第12回 親子映画観賞会

6月29日(土)

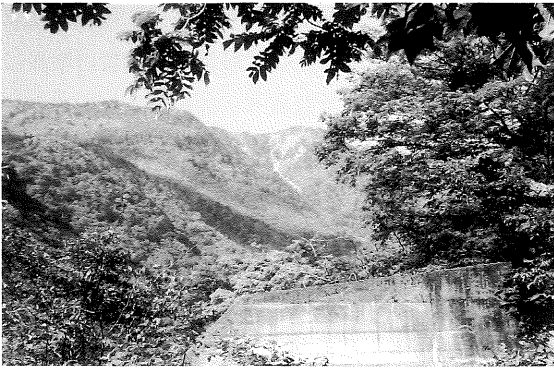
今回上映した作品は、「ラマになった王様」でした。あいにくの雨にも関わらず多くの皆さんが参加してくれました。平成14年度は、親子映画観賞会を7回計画しています。夏・春休みの休館日を利用し

たり、平日の夜など、みんなで楽しめる作品を上映していきますので、多くの方の参加をお待ちしています。

平成13年度入館者は15,482人 (平成12年度比1,388人の増)

平成13年度 博物館利用状況

年月	開館日数	区分	有 料 入 館 者				無 料 入 館 者	年月	開館日数	区分	有 料 入 館 者				無 料 入 館 者
			観覧券	体験券	共通券	合 計					観覧券	体験券	共通券	合 計	
13. 4	26	大 人	734	116	272	1,122	24	13. 11	26	大 人	824	256	249	1,329	78
		中学生	5	16	67	88				中学生	7	16	4	27	
		小学生	18	58	59	135				小学生	42	58	47	147	
		小計	757	190	398	1,345				小計	873	330	300	1,503	
5	26	大 人	776	194	356	1,326	42	12	23	大 人	221	175	121	517	9
		中学生	20	29	33	82				中学生	0	4	4	8	
		小学生	18	74	71	163				小学生	7	30	8	45	
		小計	814	297	460	1,571				小計	228	209	133	570	
6	26	大 人	517	180	417	1,114	29	14. 1	25	大 人	293	129	103	525	18
		中学生	1	4	7	12				中学生	4	3	3	10	
		小学生	2	38	42	82				小学生	8	38	26	72	
		小計	520	222	466	1,208				小計	305	170	132	607	
7	27	大 人	499	227	354	1,080	36	2	24	大 人	430	70	163	663	8
		中学生	3	6	155	164				中学生	4	2	1	7	
		小学生	51	53	67	171				小学生	3	25	16	44	
		小計	553	286	576	1,415				小計	437	97	180	714	
8	27	大 人	867	496	669	2,032	13	3	28	大 人	599	182	234	1,015	15
		中学生	16	54	48	118				中学生	4	18	18	40	
		小学生	290	199	238	727				小学生	13	61	37	111	
		小計	1,173	749	955	2,877				小計	616	261	289	1,166	
9	26	大 人	535	228	301	1,064	18	合計	310	大 人	6,801	2,438	3,550	12,789	291 30 32 323
		中学生	8	12	3	23				中学生	86	177	353	616	
		小学生	14	91	27	132				小学生	514	785	778	2,077	
		小計	557	331	331	1,219				小計	7,401	3,400	4,681	15,482	
10	26	大 人	506	185	311	1,002	1								
		中学生	14	13	10	37									
		小学生	48	60	140	248									
		小計	568	258	461	1,287									



登山道から望む“内山の大ガレ”

博物館では、主に湯之奥金山を中心に年に何度か独自の遺跡調査を行っています。その中でも内山金山は、これまで幾度も調査計画を立てているにも関わらず、3金山の中でも登山道が随所で崩落し、足を踏み入れるのに最も危険な状態になっているため、またその度に悪天候に見舞われるなど、調査を断念してきた遺跡です。しかし、5月21日(火)、意を決してようやく内山金山の調査に入ることが出来ましたのでここに報告いたします。

内山金山は毛無山の西側の中腹、入ノ沢に面した標高1,350m付近に位置し、山腹を大きくえぐった露天掘りの採掘坑が数カ所、そして南向きの尾根筋に段状に作られたものや、沢の水場に沿った位置にあるものなど全部で29カ所のテラスがあります。

各テラスからは鉱山用の石臼や、戦国時代の明の染付け皿など、多くの陶磁器も発見されており、当館の常設展示室にも内山金山から出土した湯之奥型の上下挽き臼、染付け皿などこれらの資料を展示しています。

内山金山の操業に直接関わる文献は残されていませんが、残った文献から当時を垣間見ることが出来ます。慶安年間(17世紀中期)の古文書に200間にも及ぶ長大な間歩について記されていますが、この間歩の経営を巡って、中山の金掘りに対して非法を訴えた論争が生じたようです。しかし「甲州河内領か屋小や内山村、近年者一円金出不申候二付退転仕候、…貞亨三年虎之七月日(門西家文書No.19)」とあるように、盛期は長く続かず貞享年間(17世紀後半)には金掘りたちの多くが山を下ったと考えられます。

さて、今回も現地案内役を石部典生氏にお願いし、

館から2人、計3人で出発しました。内山の調査というとは必ず降っていた雨でしたが、この日は朝から良く晴れ調査には絶好の天気でした。

毛無山を遠方から臨むと、夏場などは特に、周りの木々とのコントラストでくっきりと白い山肌が浮かび上がっています。“内山の大ガレ”と呼ばれているこのガレ場には逸話も残っていますが(掘内真氏 金山史研究第1集「金山衆の暮らしと信仰」76-79頁参照)ここを登り山中に入っていくと内山金山です。

茅小屋金山からさらに2時間半ほど登った地点になりますが、石部氏自身も内山に入るのは6年ぶりということで、また自然崩落が激しい地点であることなどを考えると、おそらく道や現場の状況は大きく変わってしまっているだろうということでした。

地元でも忘れ去られていた内山金山に調査の手が入ったのは湯之奥金山総合学術調査が行われた平成元年、それから平成8年の関連調査の時です。

実際、標高の低い茅小屋、そして現在も登山コースになっている中山と違い入ノ沢の奥深くにある旧道も土石流などで荒廃し、調査時は何とか通る事の出来た旧道も現在は所々崩落しており、予想通り、遺跡への道はないに等しい状況で、それを迂回していくので余計に時間がかかり、現地に到着したのは出発から約4時間が過ぎたころでした。

到着した現場で目にしたのはテラス下に集積したズリの山でしたが、まず報告されている29テラス中、8テラスを確認しました。

その中に「寺屋敷」と呼ばれる3段の立派な石積みみの広いテラスが残っています。湯之奥3金山の中でも最も規模の大きく立派な石積みですが、ここにはかつて日蓮宗の栄金山永久寺があったと伝えられています。この石積みを実際に見れば、その話を納得させる説得力を持ち合わせているとだれもが感じるはずです。また寛文年間(17世紀)の宝篋印塔が残されており、一基は1654年、もう一基は1666年の銘が刻んでありますが、ここで新たな発見がありました。別のテラスに石塔が確認されたのです。残念ながら石塔の一部で蓮華座のみであったため、そこに何の銘も刻んでありませんでしたが、操業時の遺物であることは間違いありません。報告書には前

述した2基の石塔の記載がされていますが、この新たな発見の結果、内山には3つの石塔が現存することになります。

道の険しさから登山に時間がかかってしまい、現地での時間が余り取れなかったことが残念でしたが、石臼も数点確認することが出来ました。下山が遅くなると危険なので、特に目をひいた上臼を持ち、調査を切り上げました。

荷物が重くなったこともあり、来る時同様、下山

にも随分時間がかかりましたが、全員無事、館へ戻ることが出来ました。

数年間確認できなかった現地がようやく確認できたこと、また新たな発見も出来たことなどから、たった一日でしたが、非常に有意義な調査でした。

内山の鉾山臼についてはまたこのページで紹介したいと思います。(学芸員 小松美鈴)

※現地は非常に危険ですので、個人で登るのはくれぐれもおやめください。

私の研究ノート⑩

金山衆の系譜②

高岡 伸 五 (湯之奥金山博物館友の会会員)

前は「湯之奥(中山・内山・茅小屋)／富士(麓)金山の金山衆の系譜」について、一つの試案として系譜を作図し、その可能性を模索してみました。

その中で分類される一族は、太田(大田)、竹川、河口、石川(石河)、望月の5系統を提案しました。

まず、最初に富士(麓)金山に太田一族が登場(天文3・1534年)、続いて登場するのが、中山金山の河口一族(永禄11・1568年)です。

この太田と河口一族は、太田神五郎、河口六左衛門尉の子孫を名乗る市郎右衛門(河内内山金山)の存在から縁者であることが推測できます。

と言うことで、富士金山(太田)と中山金山(河口)の金山衆の繋がり、同族意識が強かったのではないかと思います。

太田家・河口家に竹川家が参入

次に登場する人物は「竹川一族」です。竹川家文書は8点あります。

①天文20年今川義元朱印状、太田掃部丞宛(付図⑨の文書)です。

②天正2年穴山信君諸役免許判物、平岡民部丞宛。

③天正5年穴山信君判物、竹川肥後守宛(付図⑤の文書)

④天正8年有泉昌輔手形、望月弥助宛(付図⑥の文書)

⑤天正10年北条家朱印状、美濃守宛。

⑥天正11年徳川家普請役免許朱印状、太田伊賀守・

竹川藤左衛門・石川佐渡守・金山衆22人宛(付図⑦の文書)

⑦慶長7年志村甚之助証文、井出志摩守代(石井雅楽助・下田吉衛門宛)(付図⑨の文書)、同裏書き井出志摩守(井出正次)から竹川甚八郎宛。

⑧年号不詳井出正次書状、甚兵衛、市右衛門宛。などです。

いずれも金山に関わる文書ですが、竹川家が金山と深い関わりがあることを知ることが出来ます。特に竹川家文書①の付図②の富士金山へ上げる荷物の文書と⑦の付図⑨の中山金山の間歩の文書を見ると、天正5年ぐらいから竹川一族が太田一族、河口一族に加わり、産金活動が行われた様子が伺えます。

特に竹川家文書⑥、付図⑦の徳川家普請役免許朱印状に見られる太田伊賀守、竹川藤左衛門、石川佐渡守、金山22人衆の文書から太田家と竹川家、それに石川家が加わった事が分かります。

付図①の太田神五郎、付図③④⑧河口六左衛門の文書を所有していた市郎右衛門。

付図②の太田掃部丞、付図⑤⑦⑨の文書を所有していた竹川家の金山への関わりは、根強いものを感じます。

太田一族は富士金山から茅小屋金山へ、河口一族は中山金山から内山金山へ、竹川一族は富士金山から中山金山へ、石川一族は富士金山から中山金山へという流れ(仮説)を読むことが出来ると思います。

館からのお知らせ

公開講座のお知らせ

平成14年度 湯之奥金山博物館公開講座
河内地方の諸金山
～ 甲斐国・河内における金山史研究の歩み～

通算回	期 日	演 題	講 師 名
第26回	平成14年 10月12日(土)	河内の諸金山① (早川町の諸金山)	山梨県考古学協会 名誉会長 野 沢 昌 康
第27回	11月 9 日(土)	河内の諸金山② (南部・身延・下部の諸金山)	郷土史研究家 加 藤 為 夫
第28回	12月14日(土)	湯之奥金山と学校教育 (学校教育に取り入れられた湯之奥金山)	元下部町教育長 二 宮 美 仁
第29回	平成15年 1月18日(土)	穴山梅雪と金山 (文献からみた穴山氏と金山)	山梨県史編さん室 平 山 優
第30回	2月22日(土)	甲斐金山の展望 (金山史研究の現状と将来)	帝京大学山梨文化財研究所 所 長 萩 原 三 雄

金山史研究第3集発刊

かねてよりお知らせしていました『金山史研究第8集～平成11年度記念講演と公開講座の記録～』ですが、発売が遅れ、皆様には御迷惑をおかけいたしておりましたが、発売開始いたしましたので、第1集、第2集共々どうぞ御活用ください。内容は次のとおりです。

◎書名 金山史研究 (第3集)

—平成11年度記念講演と公開講座の記録—

◎体裁 A4版150ページ

◎定価 1,200円

夏休みプログラム

この夏、金山博物館で遊ぼう!

夏休み子供向けプログラムとして、第2回こども金山探検隊、第2回砂金掘り大会を開催いたします。どちらも昨年的好评に引き続き、第2回目となりますが、詳細は次のとおりとなっておりますのでどなたも奮って御参加ください。

第2回 砂金掘り大会 8月3日(土) 9時30分集合
{雨天8月4日(日)}

第2回 こども金山探検隊
8月10日(土)～11日(日) 8時30分集合

夏休み親子映画鑑賞会
8月21日(水) 1時開場 1時30分開演

編集後記

ホテルの季節も過ぎ、リバーサイドパークの紫陽花は今年も鮮やかに咲きました。台風騒ぎもひと段落し、山の木々はすっかり色濃くなり、初夏の様子を呈しています。季節は確実に夏へと向かっていま

す。

博物館では、金貨寄託の決定、そして入館者9万人の達成など、ここしばらくの間に大きなニュースが幾つもありました。8月には、お知らせ通り夏休みイベントも予定していますし、今年の夏はこの勢いで、乗り切っていきたいです。

博物館だより

第21号

平成14年6月30日

発行 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
山梨県西八代郡下部町上之平1787番地先
TEL 0556 (36) 0015
FAX 0556 (36) 0003

博物館ホームページアドレス <http://www.2.town.shimobe.yamanashi.jp/kinzan/>

博物館Eメールアドレス kinzan@town.shimobe.yamanashi.jp